してその後の対応～」というシンポジウムを組み、被災現場で御苦労された方々にシンポジストをお願いしました。陸前高田市、県立高田病院の石木幹人院長の特別講演には約290名の参加者が熱心に耳を傾け、パネリストとの総合討論では、この経験と反省を次の世代に伝えるべく非常に活発な討論がなされました。

また、自治医科大学の森澤雄司先生には「幸せなら手を洗おう」と手洗いの重要性をお話しいただき、感染制御・クリティカルパス・地域連携など一般演題を含め61題の発表がありました。

皆様のご協力で、有意義な学会を開催することができ心から感謝申し上げます。

第2回新潟県支部学術集会

学術集会会長：新潟県厚生連糸魚川総合病院院長　樋口清博

新潟県支部では、2011年10月30日(日)朱鷺メッセにて、第2回新潟県支部学術集会を開催いたしました。当日は新潟県内の医師・看護師・薬剤師・理学療法士・MSW・事務員などの医療従事者約140名の参加がありました。今回の学術集会には、一般12演題の応募があり、第1部医療安全・病院経営、第2部医療連携の2部構成で行われ、活発な意見交換ができました。また、その後の市民公開講座では、「医療・日本崩壊の深層と再生への処方箋」と題して、埼玉県済生会栗橋病院院長補佐 本田 宏先生を講師にご講演をいただきました。本田先生からは、今の日本が抱える医師不足、そこを発端とした医療崩壊のメカニズムをわかりやすくお話いただき、会場は熱気に包まれました。当支部は、これからも各職種などの垣根を越えて、新潟の医療従事者すべての人が集える場として機能していきたいと思っております。最後になりますが、今回の第2回新潟県支部学術集会開催にあたり、ご協力をいただきました皆様に心からお礼申し上げます。

会場風景

第2回愛媛県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構四国がんセンター ICU病棟医長　青儀 健二郎

2011年11月6日(日)10：00～16：30、国立病院機構四国がんセンター3階研修室、応接室において、第2回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会、第2回支部総会、第2回支部役員会を行いました。

学術集会では、「皆で考えよう！病院マネジメント」をテーマに、特別講演：演題名「医療マネジメントで目指すもの」秦 温信先生(札幌社会保険病院院長・日本医療マネジメント学会理事)、ランチョンセミナー：演題名「電子カルテの利点を上手く利用していますか？」平林直樹先生(安佐市民病院外科部長)、パネルディスカッション「多職種からみた医療マネジメント」、一般演題18題が発表されました。

出席者は日本医療マネジメント学会愛媛県支部会員54名、一般参加者71名の計125名で、昨年の第1回学術集会を受けて、さらに盛会とすることができました。今後愛媛県での医療マネジメントを浸透させていくべく、県支部の活動をさらに充実、活性化していきたいと思います。

第10回九州・山口連合大会

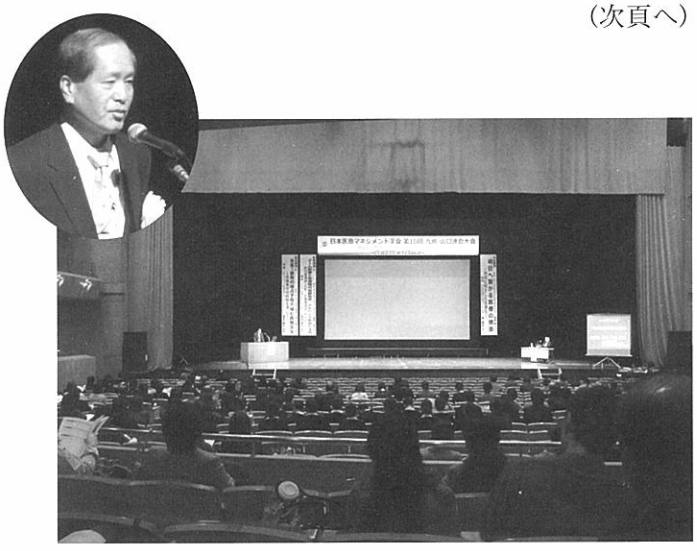
会長：国立病院機構大分医療センター院長　室　豊吉

2011年11月18日(金)、19日(土)の2日間、大分市に隣接する別府ビーコンプラザにおきまして、第10回九州・山口連合大会を開催しました。18日は一日中、19日も午前中かなりの雨という、あいにくの空模様でしたが、2日間で1,000人を超える参加をいただきました。

「明日へ繋がる医療の構築をめざして～逆風の医療状況の中を進むために～」をテーマに掲げ、開会式後、宮﨑久義先生に「医療提供の在り方を考える－日本医療マネジメント学会の活動から－」と題して理事長講演をしていただきました。2日間で3題の教育講演、4テーマ(医療崩壊から再生への道、自然災害に立ち向かうための提言、減らない医療トラブルに対する医療安全対策、地域医療連携の進む道)のシンポジウム、2セッション(クリティカルパスおよび医療安全としての医療コンフリクトマネジメントとは)の教育セミナー、8題の企業共催教育セミナー(ランチョンセミナーから改称)が行われ、228題の一般演題、35題のクリティカルパス展示発表が行われました。

各シンポジウムは、学会テーマとおおいに関連があり、

(次頁へ)



会場風景（第1会場）